

第5学年 道徳科学習指導案

令和元年10月9日（水）第5校時

- 1 主題名 許すことの尊さ 内容項目【B 相互理解、寛容】
- 2 ねらい 司教が許した意味を考えるを通して、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする心情を育てる。
- 教材名 「銀のしょく台」（出典：「みんなの道徳 5年」 学研教育みらい）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校5学年及び6学年の指導の観点は、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」である。これは、第3学年及び第4学年の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」を受けて、中学校での「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」へと発展する。

この段階においては、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。

指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには、多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。また、寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり、自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。

しかし、私たちは、自分の立場を守るため、つい他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さを持っている。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会を創っていくために必要な資質・能力である。今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止に対応するとともに、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要であると言える。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級は、思いやりがあり、友達のことを考えられる児童が多い。学級活動の話し合い活動では、誰も嫌な思いをしないように、いくつかの意見を合わせたり、意見を譲ったりして、友達の意見を尊重する

ことができている。業前運動で行っている人の字跳びでは、縄に引っかかった子に対し「ドンマイ」と声をかけたり、「その調子」とみんなを励ましたりする姿が見られた。その一方で、高学年になり、気の合う友達と小集団をつくるようになってきており、友達の輪に入れず、人間関係をうまく築けない児童も数名いる。その理由として、自分の思いがうまく伝わらない、相手の気持ちを考えていない等が挙げられる。そういったことが原因で、相手を非難したり、責めたりして、トラブルに発展している。

以下は、児童にとって「相互理解、寛容」に関連したアンケートの結果である。

「相互理解、寛容」についてのアンケート		令和元年8月29日実施（32名）	
1	相手を許せなかったことは、ありますか。 はい 16人 いいえ 16人 (許せなかった理由) ・貸したものが返ってこなかったから。 ・大切なものを壊されたから。 ・悪いことをしたのに、謝らないから。		・何度言っても嫌がることをしてくるから。 ・自分のせいにしてきたから。
2	相手を許したことは、ありますか。 はい 29人 いいえ 3人 (許した理由) ・反省した態度で謝っていたから。 ・すっきりするから。 ・自分も同じことをするかもしれないから。 ・相手だけが悪いわけではないから。 ・1回目だったから。		・素直に謝ってきたから。 ・理由を説明してくれたから。 ・些細なことだったから。 ・友達でいたいから。 ・わざとではないから。
3	友達に許してもらった時、どう思いましたか。 ・よかった。 ・ほっとした。 ・もうやってはいけないな。 ・ありがとう。 ・すっきりした。 ・どうして許してくれたのかな。		

この結果から、謝らなかつたり、繰り返し嫌なことをしてきたりした時には、相手を許せない児童が多いことが分かる。その一方で、理由を説明して心から謝ってきたり、1回目のことだったりに相手を許した児童が多いようである。

アンケート結果の人数だけ見ると、許した経験のある児童は大半だが、この教材で扱われる過ちと、児童の経験は、大きく異なるものである。そこで、この授業を通して、人は大小様々な過ちを犯す可能性があり、全ての過ちを簡単に許すことは難しいが、広い心で受け止めることが尊いことであることを理解させたい。そして、相手の立場に立って考え、他人に対して寛容な態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、19年間も刑務所に入れられていたジャン・バルジャンに対し、ミリエル司教は親切に接するも、ジャンに裏切られてしまうが、司教は許すという内容である。ジャンの素性或食器を盗むという行為から、ジャンを許せないと考える人は多い。しかし、司教は、なぜジャンを許したのかを考えることで、許すことの難しさや尊さに気付かせ、「許す」とはどういうことなのかを学ぶことができる教材である。そこで、本学級の児童の実態を踏まえ、次の視点を考えさせる。

① ジャン・バルジャンに食事やベッドを用意した司教の考え。

ここでは、19年間刑務所に入れられていた事実を知った上で、食事やベッドの用意をしてもてなした司教はとて広い心をもっていることに気付かせる。その際、自分だったら司教のようにできるかを問い、町の宿屋が断った理由を考えさせ、司教のしたことは簡単にできることではないことを押

さえる。

② 自分だったら、ジャン・バルジャンの盗んだ行為をどう思うか。

ここでは、司教が食事やベッドを用意して、親切にしたのにもかかわらず、それを裏切り、銀の食器を盗んだことに対してどう思うか、自分事として考えさせる。「親切にしたのにひどい。」といった、許せないという気持ちを取り上げ、許すことの難しさについて気付かせるのと同時に、「貧しいし、仕方がなかった。」といった、許す側の考えも取り上げ、相手の立場で考えることについても触れる。教材の後半部分である「司教のその後の行動（捕らえられたジャン・バルジャンを許す）」から、課題である「許す」とことはどういうことかにつなげていく。

③ なぜ司教はジャンを許したのか。

ここでは、警察官の問いかけに対し、司教は、「銀の食器はあげたのだ。」と嘘をつき、2本の銀のしょく台まで渡し、ジャンのことを許した意味を話し合わせる。司教は、ただ許すのではなく、「あなたは正直な人間になるために、この銀のしょく台を役立たせると、わたしに約束したのですよ。」とジャンに言ったことから、司教がジャンに伝えたかったことを考えさせる。司教が許すことによって相手の心はどう変化するのか、許されたことによって、ジャン・バルジャンはどういう思いをもって今後生きていくのか、許すことは難しいけれど、相手の立場に立って考え、広い心をもって相手にやり直す機会を与えることの尊さについて考えさせたい。

4 研究主題との関わり

〈研究主題〉

確かな学力を身につけた みなみっ子の育成を目指して
～「つながる」学習「かかわる」道徳の授業改善～

〈仮説1〉

自分との関わりで考え、他者と話し合う活動を充実させ、主体的で対話的な学びのある学習過程の工夫をすれば、考え、議論する深い学びとなり、児童の豊かな心が育つであろう。

〈手立て〉

・自分事として考えられる導入や課題の工夫

事前アンケートから、許したこともあれば、許せなかったこともあり、それにはどのような理由があったのかを全員で共有することで、学習する前の段階で、人によって考えが様々であることを知り、許すことに対しての問題意識をもたせる。児童にとっては、どんな理由であろうと、許せないという気持ちをもつことはあり、それでも、司教はジャン・バルジャンを許したことから、なぜ許したのかということ課題として設定し、司教の立場に立って考えさせる。自分自身は許すことは難しくても、司教の許すという行為から、許した司教の思いや願い、許されたジャン・バルジャンの気持ちなどから、許すことの意味を考えさせたい。

・話し合い活動の充実

なぜ、司教がジャン・バルジャンを許したかを考えさせる際、4人グループで話し合わせる。ただ意見を発表する場にするのではなく、「〇〇さんと似ていて、私も～と思う。」「でも、～という気持ちもあったのだと思う。」「〇〇さんとは違って、私は～思う。」といった考えをつなげていくようにする。話し合いの中で、ワークシートに友達の考えをメモしながら、自分の考えを深めさせるようにし、許すことの意味を考えさせたい。

〈仮説2〉

ワークシートを活用した価値理解、他者理解、自己理解を深める評価の工夫をすれば、物事を多面的・多

角的に考え、ねらいとする道徳的価値に迫ることができ、児童の豊かな心が育つであろう。

〈手立て〉

・振り返りの時間の充実

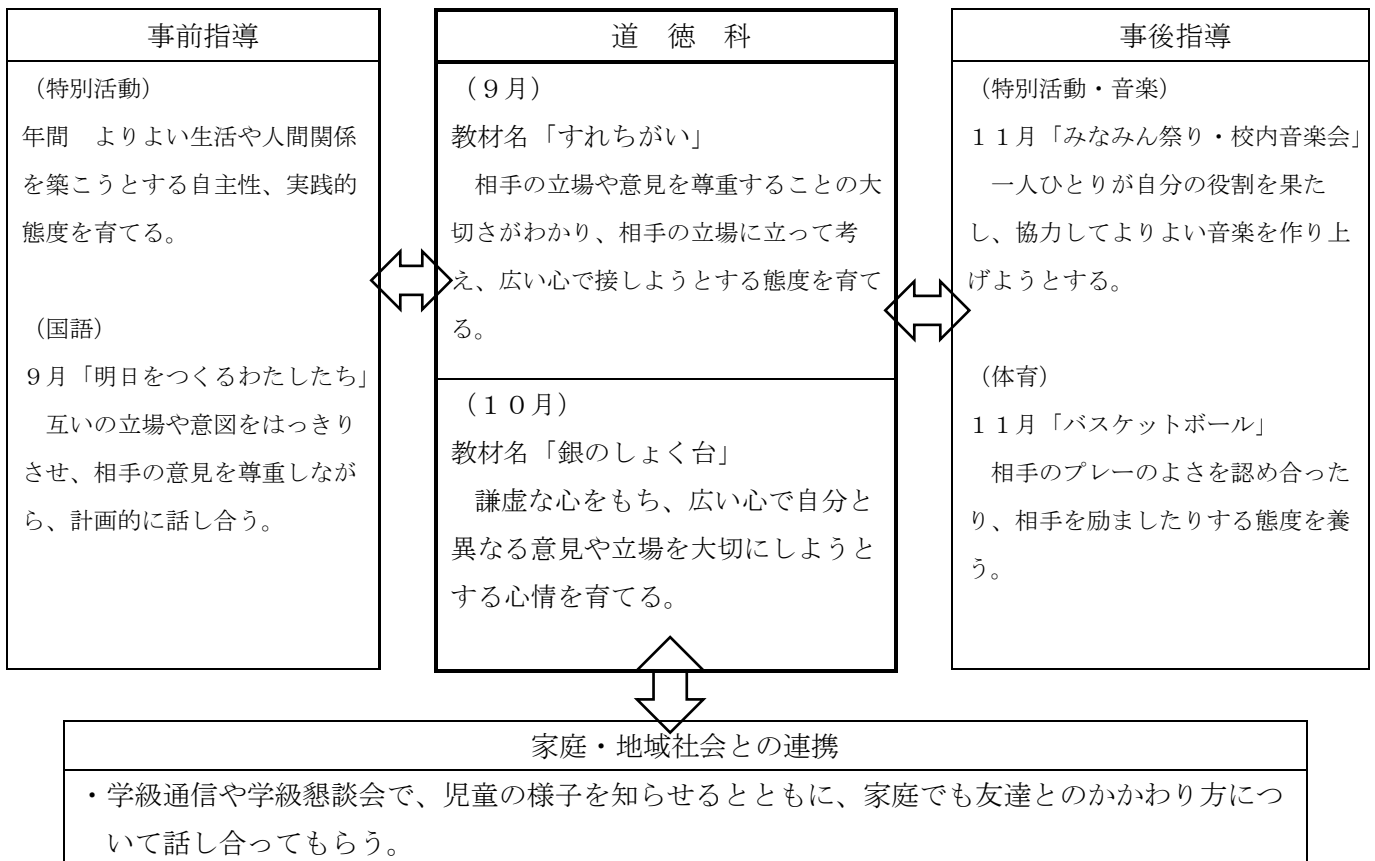
なぜ、司教がジャン・バルジャンを許したかを考えさせた後、導入で用いた事前アンケートを活用し、自分の経験を思い返しなが、再度、許すとはどういうことかを考えさせる。振り返りに書く内容としては、本時の課題である許すことについて、今後の自分について書かせるようにする。ワークシートの最初には、学習する前の許すことについての最初の考え、最後の振り返りには、学習を通しての考えを書かせ、自己の道徳的価値に対する考えの変容が分かるようにする。

5 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 アンケート結果から、許すことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に反省して謝ったら許せる。 ・わざとでなくても、許せないことはある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果から、許せたこともあれば、許せないこともあり、理由を話し合うことで、許すことへの問題意識をもたせる。 	3
展開	2 「銀のしょく台」の条件・状況を知る。	<p>主人公 ジャン・バルジャン ミリエル司教</p> <p>19年間も刑務所に入っていたジャンは、4日前自由の身となった。上着もズボンも薄汚れている。町の宿屋を訪ねるも、どこにも泊めてもらえない。ミリエル司教の家を訪れ、泊めてもらえないか頼むと、食事とベッドを用意してくれた。</p>		3
	3 「銀のしょく台」前半（p 121・14行目まで）の読み聞かせを聞き、司教の生き方について話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・司教のことをどう思いますか。 ・警察官に連れてこられたジャンに、司教は何と言ったと思いますか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・刑務所にいた人にここまで優しくできるなんてすごい。 ・自分だったらできない。 ・こんなに優しくしたのに、盗むなんてひどいじゃないか。 ・どうして盗んだのですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の理解を深めるため、パワーポイントで作った挿絵を見せ、内容を補足しながら、読み聞かせを行う。 ・前半部分（ジャンが警察官に捕らえられるところまで）を読み、ジャンが司教を裏切り、許せない気持ちを想起させる。 ・司教のとった行動から、広い心をもっていることを押さえる。 ・ジャンに裏切られて許せない気持ちを共感的に受け止め、許すことの難しさを気付かせる。 	8

	<p>4 「銀のしよく台」後半部分の読み聞かせを聞き、課題について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> なぜ司教は許したのでしょうか。 <p>5 許すことについて、自己の振り返りを行う。</p>	<p>なぜ司教は、許したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これを機に、悪い心を改めてほしい。 どうしてもお金が必要で、仕方なかったのかもしれない。 ジャンのことを信じたい。 	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントで作った挿絵を見せながら、読み聞かせを行う。 <p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> 裏切られたのにもかかわらず、ジャンを許せた司教の気持ちをグループで話し合わせる。 ☆許すことについて、登場人物の状況や気持ちを自分のこととして、考え、話し合っている。 事前アンケートに戻り、再度許すことについて考え、振り返りを書かせる。 ☆謙虚な心でこれまでの自分を見つめ、広い心で接することの難しさや尊さについて考えている。 <p>8</p>
<p>終末</p>	<p>6 ジャンのその後を紹介し、許すことについてまとめる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 司教に許してもらったことにより、その後市長になり、司教のように貧しい人々を助ける人になったことを話し、余韻をもたせる。 <p>3</p>

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

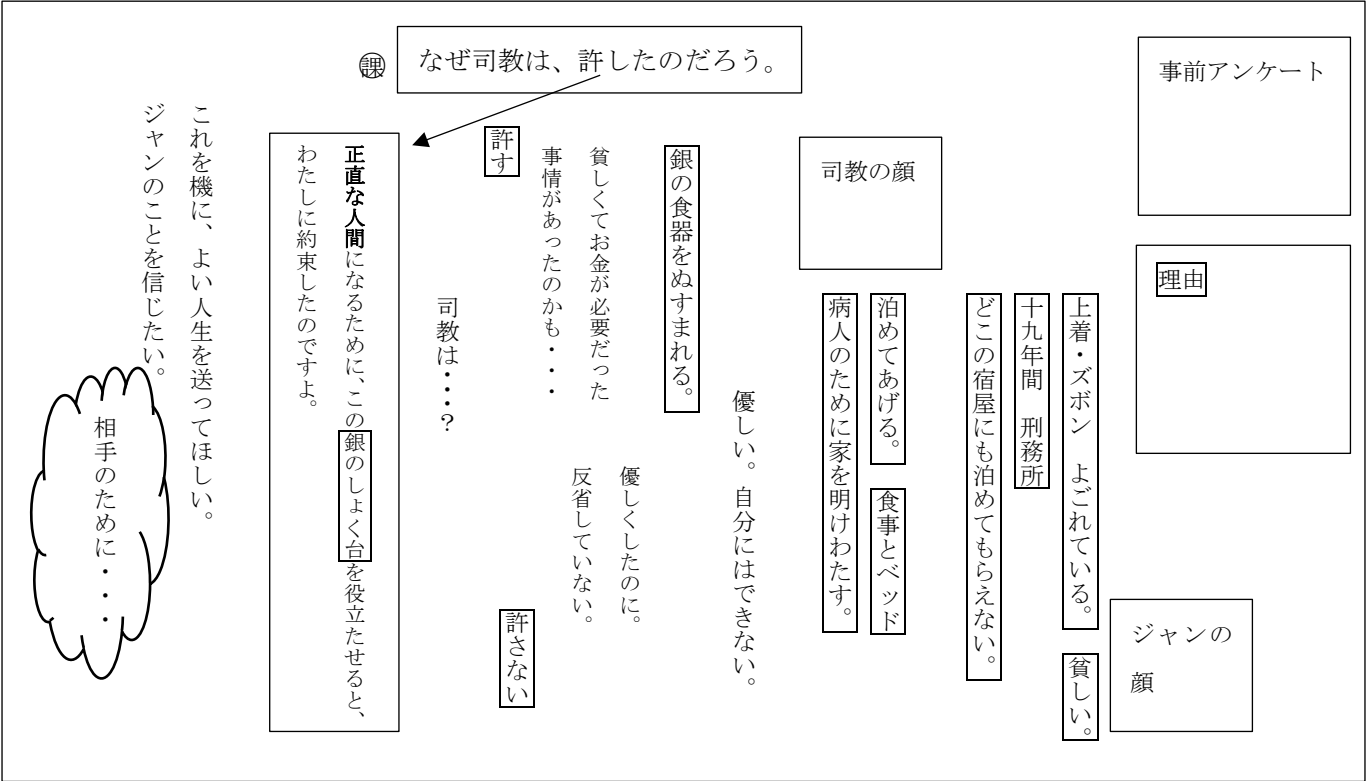
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・許すことについて、登場人物の状況や気持ちを自分のこととして、考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・謙虚な心でこれまでの自分を見つめ、広い心で接することの難しさや尊さについて考えている。

8 板書計画



9 教材吟味表

教材名：銀のしょく台 （出典「みんなの道徳 5年」 学研教育みらい）
スタートの条件・状況 主人公：ジャン・バルジャン ミリエル司教 ・ジャンは、19年間刑務所に入っており、4日前にようやく自由の身になった。 ・ジャンが、自ら刑務所にいたことを話すと、町の宿屋に全て断られてしまった。 ・ミリエル司教は、ジャンの話聞き、食事とベッドを用意して、家に泊めることにした。 ・ミリエル司教は、広い教会を病人に明け渡し、病院を教会代わりにしていた。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話合いの柱など】

課題 なぜ、司教は許したのだろう。

秋のある晩
 この辺りでは見かけない男が入ってきた。
 →上着もズボンも薄汚れ、疲れ切った顔
 「どうしても行かなければならない所があるので、歩き通しに歩いてきました。町の宿屋には全て断られ、途方に暮れているのです。どうか一晩、泊めてもらえないでしょうか。」

↓

ミリエル司教は、ジャンの話聞き、食事とベッドを用意した。
 ジャン「どうかお金をとってください。」 司教「お金はしまっておきなさい。」

↓

ベッドの中 なかなか眠れない。
 つらかった刑務所での暮らしが思い返された。
 →脱走を企てて刑が増えた。刑務所で得たお金は、百フランと十五スー。
 司教の部屋に入り、銀の食器を持って立ち去った。

↓

次の朝
 3人の警察官が、1人の男の首を押さえながら入ってきた。→
 司教
 「銀の食器といっしょに、このしょく台も差し上げたのに、どうしてお持ちにならなかったのですか。」

許す

- ・何か理由があったのではないか。
- ・これを機にやらないでほしい。

許さない

- ・また罪を犯すなんて反省してない。
- ・あんなによくしてあげたのに。

2本のしょく台を持ってきて「さあ、これも持っておいでなさい。」
 「あなたは正直な人間になるために、この銀のしょく台を役立てると、わたしに約束したのですよ。決して、わすれてはいけません。」

人を許すとは、

- ・やり直す機会を与える。
- ・何か事情があるのではないかと考える。

まただめかもしれない。

なんて優しい人なんだ。

銀の食器は、この2倍のお金になる。

司教のことをどう思いますか。

あなたは、ジャンのことをどう思いますか。

司教は、なぜ許したのでしょうか。

【内容項目】B 相互理解、寛容

【ねらいとする人間像】

謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を大切にしようとする児童。

小高-7